

難波田龍起（なんばた・たつおき）年譜

略歴

- 1905年 北海道・旭川に生まれる。翌年、一家で上京。
- 1923年 18歳 早稲田第一高等学院に入学。高村光太郎を知る。
- 1926年 21歳 早稲田大学政経学部入学（1927年中退）
- 1927年 22歳 高村光太郎と一緒に見たゴッホの作品に感動、画家を志す。
- 1928年 23歳 光太郎から川島理一郎を紹介され、師事する。
- 1929年 24歳 第4回国画会展（東京府美術館）出品、入選
- 1933年 28歳 松本竣介、鶴岡政男らと親交を深める。
- 1935年 30歳 [フォルム] を結成
- 1937年 32歳 自由美術協会の結成に参加。第23回展まで連続出品。（1959年退会）
- 1946年 41歳 日本美術会の発足に委員として参加
- 1953年 48歳 国際アートクラブ・日本支部発足（代表：岡本太郎）、会員となる。
- 1957年 52歳 文化服装学院講師となる。（1981年3月まで）
- 1961年 56歳 北象会（北海道出身の抽象画家8人による）結成
- 1971年 66歳 紺綬褒章を受章する。
- 1974年 69歳 次男・史男、瀬戸内海で死去 享年32歳。翌年には長男・紀夫も死去する。
- 1988年 83歳 第29回毎日芸術賞（1987年度）受賞
- 1995年 90歳 北海道新聞文化賞受賞
- 1996年 91歳 文化功労者として顕彰を受ける。
- 1997年 92歳 11月 世田谷区内の病院で肺炎のため死去（享年92歳）
- 1998年 難波田龍起・史男記念美術館開館（富山市）
- 1999年 東京オペラシティ アートギャラリーが開館、「寺田ギャラリー」に作品が常設される。

主な展覧会

- 1994年 「難波田龍起展 1954年以降 ― 抽象の展開・生命の響き」（世田谷美術館）
- 1989年 「石窟の時間 ― 難波田龍起個展」（銀座アートセンターほか）
- 1987年 「今日の作家 難波田龍起展」（東京国立近代美術館）
- 1982年 「形象の詩人 難波田龍起展」（北海道立旭川美術館、北海道立近代美術館）
- 1978年 「難波田龍起、紀夫、史男」展（池田二十世紀美術館）
- 1977年 「難波田龍起近作展」（フジテレビギャラリー、東京）
- 1973年 「戦後日本美術の展開―抽象表現の多様化」展（東京国立近代美術館）出品
- 1963年 「現代絵画の動向」展（国立近代美術館京都分館）出品
- 1956年 「世界・今日の美術展」出品
- 1947年 第1回美術団体連合会展（以降5回まで出品）
第1回アンデパンダン展（日本美術会主催）に出品。以降、48年、50年、52-58年にも出品。
- 1942年 第1回難波田龍起個人展覧会（青樹社画廊、銀座）
- 1930年 難波田龍起個人展覧会開催（本郷）

没後展覧会

- 2019年 「生誕115年 片岡球子と難波田龍起展」（北海道立釧路芸術館）
- 2015年 「難波田龍起・史男の世界」（早稲田大学 會津八一記念博物館）
- 2014年 「難波田龍起展 Tコレクションを中心に」（大川美術館）
- 2001年 「生誕100年記念 難波田龍起展 その人と芸術」（東京オペラシティアートギャラリー）
- 1999年 「生の交響詩 難波田龍起展 日本の抽象と想像の展開」（東京オペラシティアートギャラリー）

パブリック・コレクション

東京オペラシティアートギャラリー

東京国立近代美術館

京都国立近代美術館

国立国際美術館

東京都現代美術館

富山県美術館

石川県立美術館

福岡県立美術館

埼玉県立近代美術館

静岡県立美術館

新潟市美術館

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

徳島県立近代美術館

大阪中之島美術館

三重県立美術館

青森県立美術館

北海道立近代美術館

北海道立旭川美術館

北海道新聞社

札幌芸術の森美術館

横浜美術館

練馬区立美術館